

## 今日は久しぶりの登校日でした

やっぱり学校には生徒がいないとダメだな！と改めて思いました。私のように生徒と直接話をしない人間でも、いろんな表情で先生方の話を聴き、課題を提出する姿を見ているだけで心が癒されます。写真で見ていたのとずいぶん様子が違って見える生徒もいました。早く本物の生徒たちと授業がしたい！

5月1日に「休業中の紙媒体に替わる学習方法を模索する会」（仮称）が開かれました。その時に話題になった「質問箱」はさっそく実現し、生徒たちから多くの質問が出され先生方とのやりとりが始まりました。また、校長先生をはじめ先生方の応援メッセージやミニ授業の動画もHPにアップされるようになり、再生回数も多くなっています。（冬部先生の「落ち」付きの実験は自宅で視聴し、夫婦で大爆笑しました。）

さて、この会議の前日に専攻科2年生の生徒に「緊急のお願い」として私がそれまでに行ってきた授業？についてのアンケートをメールでお願いし、13人から返信をもらいました。課題ではないので任意の返信としましたが、次のような返信をみると心が奮い立ちます。

メールには任意での返信とありましたが、授業は私たちのために行って下さるものであるため、私達も主体的に今後どのようにしていくのか発信していく必要があると思いましたのでメールにてお返事をさせていただきます。

この生徒は「プリントやメールの2つの方法に欠けるものとしては、授業のように特に重要なポイントが分からないことだと思いました。」と書いています。なるほどな、と眼から鱗でした。

せっかく生徒たちが寄せてくれた意見なので先生方にも公開して生徒たちの思いを共有していただければと思い添付しました。

試行錯誤、暗中模索の取り組みで、未だに納得がいきません。これまで授業で取り組んできたグループワークができないので、生徒が他者と意見交換しながら自分の意見を深めていくことができません。今回の課題では、電子版「伝々夢詩」掲載の他者の意見を読んだ感想を設定し、「LINEなどで意見交流をすることを推奨します。」という添え書きをつけました。取り組みが出てくるかどうか、待ちたいと思います。

4月に郵送した課題に関する質問はたくさん出され、同じような質問を2つほどくくって回答を一斉配信してきました。これまでの授業では他者を意識して発言や質問が出にくかったのですが、メールではとりあえず私と生徒個人のやりとりなので、いつもより「密な」質問が出ています。授業が再開されてもこのルートを活かさないか、と思案中です。